

# 原則やガイドラインから法制化へ

- EU AI Act
- 欧州評議会のAI枠組み条約
- 米国ホワイトハウスのひきだした「誓約」
  - 公表された資料には、法制化までの暫定的な措置との言及もある
  - 別の大統領令では一部のAI開発に関する通知義務を導入
- 自民党のAI PT素案
- ...

# 日本も高いプレゼンス、積極的な活動

- 2023年のG7を発端とする広島AIプロセス
  - 行動規範の公表などの成果も（「高度な AI システムを開発する組織向けの広島プロセス国際行動規範」）
- EUとの政策協調（EUの自主規制的的制度AI Pactへの関与など）
- 日米それぞれのAIセーフティ・インスティテュートの持つリスク整理枠組みの相互の関連づけ
- 欧州評議会のAI枠組み条約にもオブザーバー参加

→今後、国際協調や議論への関わり方をどのようにして行くとよいか？

# AIを扱うことの難しさ

- 技術的な複雑性
- 業界構造や収益モデルの複雑性
- 変化の速さ
- 的外れな政策、有害な政策を採用してしまうリスクや、規制などが古くなるリスクがある

→ 民間の知恵を借りる「共同規制」のアプローチの可能性や課題は

# 扱うリスク・課題の変化

- 深層学習系AI
  - 雇用への影響
  - アルゴリズムによる差別
- 生成AI
  - 表象のバイアス
  - フェイクニュース／ハルシネーションによる誤情報の拡散
  - バイオセキュリティなど（生物・化学兵器の製造・入手の容易化）
- 新たな立法や規制が必要なのはこういった課題か？
- （民主主義やイノベーションといった価値の追求との調整）